

8月22日（木）

大阪プロモーションセミナー&ネットワーキングレセプション

午前10時、ジャパンハウスサンパウロに到着。大阪プロモーションセミナーに先立ちサンパウロ市、ジャパンハウスサンパウロ、在伯なにわ会の協力で実現した「大阪



大阪スコープを覗き込む市会代表団

スコープ」を視察。大阪スコープは、リオデジャネイロオリンピックの閉会式において、安倍首相がマリオに扮し、東京とリオを繋げたことにヒントを得て作成され、大阪スコープを覗くことでサンパウロから大阪の様々なシーンを見ることができ

大阪スコープを視察した後、大阪プロモーションセミナーに出席した。プロモーションセミナーに先立ち、大阪に派遣されたことのある方々による和太鼓パフォーマンスが行われた。

その後、セミナーに出席している中尾副市長、有本副議長を初めとする市会代表団、大阪・サンパウロ姉妹都市協会の紹介の後、中尾副市長が挨拶を行った。

【中尾副市長挨拶要旨】

本日は、大阪市とサンパウロ市の姉妹都市提携50周年を記念し、サンパウロ市の皆様のお力添えをいただき、大阪プロモーションセミナーを開催することができた。開催に当たり、御支援をいただいた皆様には厚くお礼を申し上げます。

今回の訪問では、サンパウロ市役所において50周年記念式典や、記念植樹式を行いました。私は今回初めてブラジル、サンパウロに参ったが、皆様から温かく迎えていただき感謝申し上げます。

大阪市では本年6月28日、29日に日本で初となるG20サミットが開催され、世界から37の国や機関をお迎えすることができた。ブラジルからはボルソナーロ大統領をお迎えし、安倍首相との首脳会談において、両国間の貿易・投資の促進や防災・環境保全など幅広い意見交換をされたとお聞きしている。

大阪は活気や魅力に溢れており、イノベーションが生まれる環境に恵まれています。製造業やサービス業の他、幅広い産業の集積があり、有数のグローバル企業の拠点が

置かれる一方、ものづくりを支える中小企業群が形成されている。大阪市では、都心の再開発地域において、大阪イノベーションハブと呼ばれるイノベーション支援拠点を整備し、起業家を中心としたネットワークの形成を進めている。

大阪は、多くの人が集まり、出会い、交流する「おもろい」都市である。2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに2回目となる万博も開催される。ぜひ皆様も「おもろい」大阪にお越しいただき、大阪をじかに体験していただきますよう、お願いいたします。本日は御参加いただき誠にありがとうございます。

続いて、有本副議長から挨拶を行った。

【有本副議長挨拶要旨】

本日のプロモーションセミナーの開催に当たり、多大なる御尽力をいただいた在サンパウロ日本国総領事館並びにサンパウロ市の皆様に心よりお礼申し上げます。

本年は、大阪市とサンパウロ市が1969年に姉妹都市提携を結んでから50周年の大変



記念すべき年である。その記念すべき年に、大阪市代表团、大阪・サンパウロ姉妹都市協会と共にサンパウロ市を訪問できたことを大変光栄に存じる。そして、本日、このようにたくさんの方にお越しいただくことができ、心より嬉しく思う。

お集まりいただいた皆様には、この機会を是非大切に

していただき、交流を深め、サンパウロ市と大阪市における関係強化、ビジネス交流の促進などに繋げていただきたいと存じる。

結びに、サンパウロ市と大阪の交流がより一層深まるよう、また、本日お集まりの皆様のお健勝・御多幸を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。

続いて、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長、野口在サンパウロ日本国総領事から挨拶を行った後、セミナーが始まった。

大阪プロモーションセミナーは、姉妹都市提携50周年を迎え、サンパウロを基盤に活動する企業等を対象に、大阪の現況や強みを紹介するとともに、イノベーション都市大阪の魅力のプロモーションすることで、大阪への関心と展開を促すものである。

まず、大阪のプロモーションビデオを放映し、ジェトロサンパウロからのプレゼンテーションを行い、大阪市からは、イノベーション都市大阪の魅力について、大阪のビジネス魅力、イノベーション創出の取り組みについてプレゼンテーションを行った。

その後、「Predict Vision」から、大阪イノベーションハブのイベント・ハック大阪2019（起業家、投資家、学生など様々な方が参画し、世界の先行事例からイノベーションを巻き起こしていくヒントを学ぶイベント）における、自らの体験を交えた大阪での経験や魅力を語っていただき、「Sp Negocios」からは、サンパウロにおいて投資を行いたい企業と必要な手続きを行うための役所等とのマッチングや情報提供を行うなど、企業の課題解決に結びつけるための様々な取り組みを行っている旨のプレゼンテーション、「ADEMSAMPA」からは、スタートアップとして、革新的な技術を零細な企業において使用することを奨励することで、社会問題の解決に貢献していく事業を行っている旨のプレゼンテーションがそれぞれ行われた。

セミナーは、参加者が100名を超え、会場に用意されていた座席は常に満席状態であり、サンパウロにおける企業等にアピールを行うことができた。また、セミナー終了後はランチビュッフェによるネットワーキングが行われ、サンパウロで働く企業の方など、日本人、ブラジル人を問わず多くの参加者と意見交換を行うことができた。

ネットワーキング終了後、サンパウロ市議会へ向かった。

サンパウロ市議会表敬訪問

サンパウロ市議会 8 階の議長応接室に伺うと、エドゥアルド・トゥーマ議長にお出迎えいただいた。トゥーマ議長からは本会議の開会直前にも関わらず歓迎の挨拶をいただき、記念撮影の後、アウレリオ・ノムラ議員、尺八奏者のシェーン氏らと意見交換を行った。

【トゥーマ議長挨拶要旨】

ようこそお越しいただいた。アウレリオ・ノムラ議員が我々の架け橋となり、ブラジルと日本の友好・文化協力を一生懸命行っている。皆様が日本からサンパウロにお越しいただいたように、ノムラ議員が今度は大阪に行く訪問団の準備をされている。議会を代表し、



トゥーマ議長との記念撮影

私からの歓迎の言葉とさせていただきます。

主なやり取りは以下のとおり。

(シェーン氏)

初めまして。私は1987年から13年間日本に住んで尺八を勉強し、その後ブラジルに戻ってきた。日本の音楽家とブラジルの音楽家でもっと文化交流をできればと考えている。そういう企画があればぜひ応援してほしい。CDを1枚差し上げる。

(ノムラ議員)

サンパウロと大阪市の学校同士で提携し、文化のプロジェクトを立ち上げるのもいいのではないか。

- ・ 地理的な問題があり、頻繁に行き交うことができないことから、メッセージを送り合ったり、今回は絵画をやりとりしているが、実際に子供たちをこちらに連れてくるといったことはできないのが課題である。

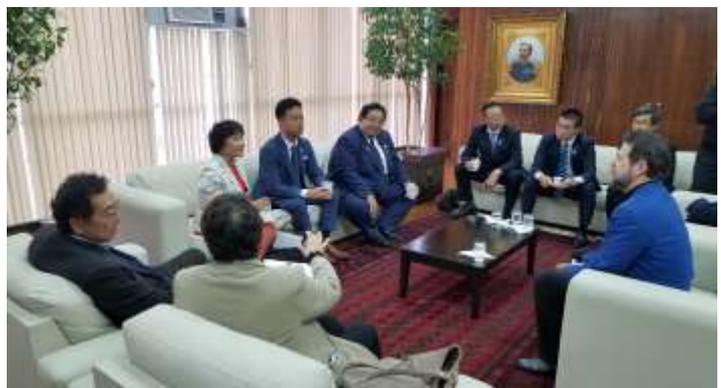
⇒こちらのオーケストラにアラガキ氏という日系の指揮者がプロジェクトを立案しており、それは人類の歴史と共に音楽の歴史を語るというものである。それぞれの小学校に文化、特に音楽に携わる方を集めてプロジェクトを紹介し、それぞれの学校で普及しようと考えている。子供たちを連れてくるのは難しいので、先生など何名かがこちらに来ていただき橋渡し役として普及していくというやり方であれば、文化的な交流を広めることができるのではないか。

- ・ 指導者が交流するというイメージか。課外活動のような形か。

⇒そのとおりである。

- ・ 5年前にジュニアバンドを連れてきたが、彼らは非常に刺激を受けていた。楽譜はどの国の人が見ても同じ音を出せる国際標準語である。

⇒様々な日本文化がブラジル人の注目を集めている。非日系の方が太鼓を習うといったことが段々と増えている。自分は今、日本文化を受け入れる体制が整っていると考えている。日本食に始まった日本文化の普及が太鼓など



意見交換の様子

に広がり始めており、チャンスではないかと考えている。今現在そういった取り組みを行っているのは沖縄県人会で、沖縄県人会は自分たちの子孫に踊りや太鼓

や三味線などを伝えていっている。日本の文化は沖縄に代表される踊りや太鼓だけではないということを伝えるチャンスだと考えている。シェーン先生もどうすれば普及できるかということを探している。私としてもブラジル人の音楽に対する質を高めていく時期と考えている。

- ・スポーツのように、日本にある子供たちの合唱団と交流できれば日本の文化が伝わるのではないかと。

⇒それはとても興味深いアイデアである、プロジェクトに入れましょう。

- ・公立の学校ではなく民間で行う方が早くなると考えるが。

⇒現在は公教育の質を上げるためにこのプロジェクトを考えているが、民間を除外するつもりもない。ピオネイロという日系人によって設立された伝統的な学校があり、今でも日本の教育方式を守りながら日本語もカリキュラムの中に入っている。その学校と話をすることは問題ない。

これから情報交換を重ね、プロジェクトが固まってくれば民間に提案することもいいと思う。これほど話が前に進むとは思わなかったのでありがとうございます。来年の1月頃には大阪を訪れることができるよう計画している。

以上で意見交換を終え、屋上にあるヘリポートへと案内していただいた。



サンパウロ市議会 屋上ヘリポートにて

サンパウロ市議会本会議出席

地下1階の議場に移り、本会議に出席した。

本会議場では議員が演説中であり、生中継も行われていたが、議席にはサンパウロ市議会議員がまばらに着席しており空席が多く、こちらに気づくと演説中の議員に「Welcome Osaka」と言っていたき、議席の最前列に市会代表団が着席するなど、とても自由な雰囲気であった。当該議員の演説終了後、アウレリオ・ノムラ議員が壇上で歓迎の挨拶を行った後、市会議員全員が壇上に上がり、代表して有本副議長からお礼の挨拶を行った。

【アウレリオ・ノムラ議員挨拶要旨】

本日、このように大阪市会議員の皆さまをお迎えすることができて光栄である。今回は、姉妹都市提携50周年を記念してサンパウロにお越しいただいている。この50年間、両市の間で交流を重ね、様々な経験が蓄積されてきており、これからもこの関係を続けていきたいと思う。先ほどまで議長室で意見交換を行ったが、そこでは大阪市会の皆さんが、今後もますます大阪市とサンパウロ市の絆が強くなることを願っておられた。

両市はそれぞれの国において経済分野で大変重要な役割を担っており、大阪市はブラジルにおけるサンパウロ市と言える。先日は市役所でブルーノ市長と姉妹都市提携50周年記念式典を行ったところであり、今後もますますこの絆が緊密になり強くなることを私も願っており、来年は議会として大阪市を訪問し、議会同士の関係も深めていきたいと考えている。議会を代表して大阪市会の皆さんに感謝申し上げます。

【有本副議長挨拶要旨】

皆さま初めまして、大阪市会副議長の有本純子です。

アウレリオ・ノムラ議員とのご縁を得て、またお世話になり、本日こうしてサンパウロ市議会を訪問することができて大変嬉しく思っている。心温まる歓迎に心から感謝申し上げます。

大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年という記念すべき年に貴市議会を訪問できたことは大変光栄である。



有本副議長の挨拶

また、姉妹都市提携50周年をここサンパウロの地でともにお祝いすることができ、さらに、このような交流を深める機会を得たことはこの上ない喜びである。

両市の50年間にわたる交流の歴史は、学術交流や技術交流、スポーツなど多くの分野において活発に展開され、両市民の絆を深めながら友好親善を図ってきたところである。私どもはこのような貴重な交流の歴史と成果を誇りに思うとともに、さらなる発展に努めていかなければならないと考えている。

姉妹都市提携50周年を機に、新たな時代に向けて両市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

大阪では、2025年大阪・関西万国博覧会の開催が決定した。多くのサンパウロ市民の来阪を期待するとともに、この世界的なイベントに合わせ、様々な交流事業を盛り上げるにより、姉妹都市としての絆の強さを世界にアピールできれば素晴らしいと考えている。

最後に、アウレリオ・ノムラ議員を初め、サンパウロ市議会の皆様に深甚なる感謝を申し上げ、サンパウロ市議会のますますの発展と、大阪市とサンパウロ市の繁栄を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

有本副議長の挨拶ののち、議場を後にし、1階にあるブラジル日本移民百周年を記念して作成された記念プレートを見せていただき、サンパウロ市議会の表敬訪問を終えた。

市議会における意見交換が想定よりも長くなったため、副市長が視察を行っているFABLAB Galeria Olidoに合流することができなかった。

大阪・サンパウロ姉妹都市協会主催レセプション

午後6時より、ブッフエコロニアルというレストランにて、大阪・サンパウロ姉妹都市協会が主催するレセプションが行われた。

両国国歌斉唱の後、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長から挨拶があり、続いて中尾副市長、ロドリゴ・マッシサンパウロ市長補佐官から挨拶があった。また、野口在サンパウロ日本国総領事から、夏の全国高校野球選手権大会にて大阪代表の履正社高校が優勝したことに対するお祝いに始まる来賓挨拶が行われた。その後、高木ラウルサンパウロ・大阪姉妹都市委員会委員長による乾杯が行われた。

レセプションでは、大阪を紹介するプロモーションビデオが流され、また、かつてスピーチコンテストで優勝し、レセプションに招待された留学生に対して記念品が渡されるなど、和やかな雰囲気でのレセプションは進んだ。

中締めには有本副議長が挨拶を行った後、副議長の発声による大阪締めでレセプシ

ンを終えた。



有本副議長による大阪締め

また、空港に向かう道中において、姉妹都市提携50周年を記念して大阪市旗の色である青と黄色でライトアップされたバンデイラス記念像とサンパウロ市役所を見ることができた。



バンデイラス記念像



サンパウロ市役所

おわりに

3泊7日という日程の中で、行く先々で全ての方に温かく迎えていただき、ほとんどの場所で予定されていた時間を過ぎることが多かったものの、特段のトラブルもなく日程を終え、視察、大阪のプロモーション、意見交換を通じて多くの方と交流を深めることができました。

今回の訪問では、サンパウロ市役所や市議会を初め、ジャパンハウスのように新しくできた施設などを訪れることによって、サンパウロの現状を肌で感じる事ができました。それだけでなく、多くの日系コミュニティ、サンパウロで事業を行っている民間企業、また、留学生のように今後の大阪とサンパウロを結ぶ若い方々など、姉妹都市間の交流を深める上で最も大切な、人と人の繋がりとその強さを感じた。

今回は50周年という節目の年であったが、この先60年、70年、100年とこの関係が続くように、私たちが努力しなければならないし、若い人たちにこのバトンを繋いでいかなければならないという思いが強くなった。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行等でお世話になった大阪・サンパウロ両市の関係者の方々に心からお礼申し上げたいと思う。